

本太中だより

第4号

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

令和6年6月27日

学校は誰のものか

「おらが学校」地域の方の思いを受けて

校長 田中 一秀

6月1日から行われた学校総合体育大会では、すべての部、個人が、練習の成果を存分に発揮するとともに、対戦相手を敬う素晴らしい戦いを見せてくれました。勝負には結果はつきものです。誰かが勝てば誰かは負ける。チームにせよ個人にせよ、優勝したチーム、人以外は必ず負けるのです。勝つに越したことはないかもしれませんが、それ以上に、試合を迎えるまでの過程が大切です。試合が終わった後の子どもたちの表情、保護者の方々の熱い応援、そして、時間をやりくりして子どもたちに声援を送るために会場に来た本校職員の様子、これらからこの大会が本校にとってとても素敵で貴重なものであったと実感しております。全国、県大会に出場を決めた皆さん、さらなる活躍を期待しています。

さて、以前、ある研修会に参加した際、「学校は誰のものか？」と質問をされました。私は「学校は地域のもの」と回答しました。そして、その研修会に参加していた多くの方が（この研修会は、学校管理職、教育行政職員対象に行われたものです）、私と同じように「学校は地域のもの」と回答していました。その後、講師の方が、「皆さんと同じように学校管理職や教育行政職員の方は『学校は地域のもの』と回答します。しかし、地域の方に同じ質問をした場合、『学校は地域のもの』と回答する方はまずいません。学校や教育委員会の意識と地域の意識には明らかにずれがあります。」と続けました。私はこの話を聞いた時に、学校が地域に十分開かれていないために、地域の方が学校に興味を持っていないのではないかと思いました。今、学校では何が行われているのか、学校ではどんな子どもを育てようとしているのか、学校のことをもっと地域に発信する必要があると思いました。本校には、意欲的に活動している生徒がいます。そして、その生徒に全力で向き合いながら勤務している教職員がいます。学校を支えてくださっている保護者、地域の方がいらっしゃいます。このような姿を知っていただくことは、私の大切な職務であると考えております。

そもそも教育の目的は何かということについては、教育基本法に「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と定義されています。この目的の達成のために行われるのが、学校教育、家庭教育、社会教育です。学校教育と家庭教育、社会教育の役割は異なりますので、それぞれが役割を果たして連携していくためには、学校、家庭、地域の三者が各々の現状を把握して課題を共有し、どのような子どもを育てていくのか、どのような地域としていくのかという理念を明確にする必要があります。学校運営協議会で、学校教育、家庭教育、社会教育の役割を明確にし、学校に関わる全ての方が得意分野を生かし協働することで、学校、家庭、地域が生き生きとする。コミュニティ・スクールには、「学校を核とした地域づくり」、この地域に住みたいと思われるまちづくりができる可能性があると考えています。

6月15日（土）、本校後援会の7名の方が、藤棚周辺の除草作業をしてくださいました。大変暑い中の作業に、頭が下がる思いと同時に、改めて本校は多くの方に支えられていると感じました。後援会の皆様に謹んでお礼申し上げます。ありがとうございました。このように、地域の方の本校に対する思いには、大変熱いものがあります。また、学校教育に、生徒の安全確保に、生徒の地域での活動にと、様々な面で学校を支えてくださっています。私は、地域の方と学校が子どものために協働し、学校を拠点に地域の方も自己実現を図る、そして地域の方が「おらが学校」として本校を自慢して下さる学校を目指していきたいと考えています。そのために、皆様には「本太中を知ろう」、「本太中に行こう」を合言葉に、本校を身近に感じていただきたいと思っております。